

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



柿串の里(御調)

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
11月号

談話室



路傍講演に参加して

錦備分教会 室 悦子

私の教会の所属する加古支部は48ヶ所の教会があり8組に分けられています。9/28は「教会長路傍講演の日」とのお打ち出しに従って加古支部では3か所に分かれて路傍講演を行うことになりました。私はJR加古川駅で講演することになり、9/8に顔合せと実施計画を話し合い左記の様なスケジュールを組みました。

- 9..30 東親分教会集合
- 9..40 神名流しをしながらJR加古川駅へ
- 10..00 JR加古川駅にて路傍講演、清掃ひのきしん、リーフレット配り
- 11..40 神名流しをしながら東親分教会へ
- 12..00 昼食及び反省会

加古川駅で講演する事が決まった時、最初は「ゲッ、かんべんしてよく。」と思ってしまいました。何故かという10数年働いていたパート

が目の前にあるからです。知っている人に見られて「室さんが駅前で〇〇してたよ。」なんて言われたらいやだなあと思ったからです。これってやっぱり我が身かわいいの埃だろうなあ・・・こんな心を使ったらあかんよなあ・・・自問自答の日々。教会数がこれだけあるんだからそれにつながる信者さんも結構いるはず・・・となると「実は私も天理教なんです。」という人も案外多いかも、それならその人達に勇み心を与えることになる!!と自己暗示をかけた当日を迎えました。

トップバッターの私は「よふき暮し」をテーマに話をしました。もうすぐ私の番がやってくるだろうしうしろドキドキが止まらないということもなく「案ずるより生むが易し」といった感じでアツという間に終わることが出来ました。ヤッター終わった!! 昨日のにはほひがけが効いたのかな・・・(実は困った時の神だのみ格好良く言えば路傍講演の為の理作り!? 当日頭が真白にならない様にとの思いを込めてにほひがけにほんの1時間回ったのです。)

次はリーフレット配り「こんにちは天理教の者です。天理教って聞いたことありますか?」逃げる様に通り過ぎる人、取りあえず受け取ってくれる人「私も天理教なんですがんばって下さい。」同じ教友に声をかけてもらおうと俄然やる気が湧いてきました。皆さんも路傍講演をしている人を見

つけたら一言励ましの声をかけてあげて下さい。

反省会では一人の方が暑さにやられたのか下を向いてじっとされていました。なんと80代のとこ他にも80代の方が2人!! 私が80になったら今日の様なことはできないだろうなあ・・・すごい!! 一人ずつ感想や気付いた事を話し合いあったという間に時間が過ぎました。支部例会で顔を合わせる程度だった人との距離が縮まった様になります。これから支部活動を通してもっと親しくなり、お互い用木としての成人の道を進めていくことができばいいなあという思いを強くした一日でした。ありがとうございました。

何分喋った?

全教一斉にをいかけデーの9/28日に教会長路傍講演が行われた。駅近くの教会に集まり「神名流し」をしながらの行き帰りだ。私も駅前の片隅で緊張しながらマイクを握った。路傍講演の参加は実に25年振りだ。仲間は16人。一人話し5分の割り振りで10時から11時半までの活動。3番目に「祈りのある生活」と題して話し始めた。落ち着いてきたら周りが見えてきた。仲間はパンフレットを配っている。丁寧に頭を下げているなあ。じつと遠くで立って聞いている役目の人もいる。忙し

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には 人間が陽気ぐらしをするのを見て 共に楽しみたいとの思召から この世と人間を
お創造下され絶え間ないご守護とお導きにより 結構にお育て下さっております しかるに親心と
ご守護の有難さを忘れ 我が身思案にとらわれ 苦しむ姿を見るや「月日にハセかいちう、ハみな
わが子たすけたいとの心ばかりで」と旬刻限の到来を待って 教祖を月日の社とお定めになりこ
の世の表に現れて 今日のためすけ一条の道をおつけ下さいました事は誠に有難く勿体ない極みでござ
います

私共は親心に少しでもお応えしたいものと日々は朝夕に御礼申し上げつつ たすけ一条のご用の
上に勤め励ませて頂いております

分けてもこの月二十六日は 陽気ぐらしに向かう ひながたの道をお通り下さいました教祖が月
日の社とお定まり下された目出度い日柄でございますので おちばでは秋の大祭を執り行われます
が 当教会に於きましても理のお許しを戴いて 只今からからおつとめ奉仕者一同慶び心も一入に
明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて秋の大祭を執り行わせて頂きます 御前には実
りの秋の喜びを胸に今日の日を心待ちにして 寄り集いました道の子供達が相共に声高らかにお歌
を唱和し同じ思いに伏し排み 尚も変わらぬ親心とご守護にお縋りする状をご覧下さい
まして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年頭に次の塚 祖百三十年祭に向け「おつとめ奉仕者の増員」を目標に掲げ、そ
の意志徹底を図り 日々の理作りに励みながら成人の歩みを進めさせて頂いております
が 今月は大祭月でございますので 直轄教会へ大祭参拝をさせて頂き 更なる徹底を
図ると共にご恩報じとして 年毎に仕切って勤めさせて頂いている心定めを完遂すべく
精一杯勤めきることを誓い合わせて頂きました 経済が上向いたとはいえ、それはほ
んの一握りの人達で、多くの人々はより厳しい生活を強いられています 加えて到底人
とは思えぬような所行が日常的に起こっている現代ですが、それに流される事なく、む
しろ、より陽気ぐらし実現に向けての心を固めて確実なたすけ一条の成人の歩みを進め
させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には 旬々にお聞かせ頂く親の声を頼りに 親心に凭れたすけ一条に邁進
する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由のご守護を賜
り 皆の心がより勇み、その勇み心が人に映り、たすけ一条に勇む人が増して、お望
み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を 一同と共に
に慎んでお願い申し上げます

く駅に向かう人、下りてくる人、バスの昇降客、
一様に声のする私の方を一目見る。タクシーの運
転手さんが車から降りて腕組みして聞いてくれて
いるなあ。もしかしていいんやろか？ 何でもい
い方に取るのが主義なんです。眼に色々な人間模
様が映り流れていく。話しが終わったら、仲間か
ら少し拍手があった。緊張が解けて吻つとする。
「何分喋った？」と聞くと15分話していたという。
仲間の時間を使って申し訳なかった。その駅前
ではある教会の奥さんが毎日路傍講演していると聞
いた。実に真実の人だなあ。「また来て話して
下さい」と仰る。真実の心を学ばせて貰いに行く
つもりだ。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「十」、選七十四句中、笠岡に繋がる教
友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていました
ので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子

十全の守護鮮やかに生かさるる

▼表紙の切り絵 芦品分教会 佐々木ふさ子さん

(よふぼく)

後継者講習会「修了者のつどい」

11月24日(土)

午前9時半 受付
昼食はピロティニーにて会食
午後3時 終了

第1次～第11次までに受講を修了した方々のつどいです。
大勢の参加をお待ちしております(参加費はいりません)。

笠岡大教会

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教170年10月14日終講
福山 池田雅浩

◎本部保安室境内掛

自 立教170年10月1日
照陽 中村元彦

◎本部食堂ひのきしん

自 立教170年10月1日
至 立教170年10月5日
上 下 山野弘実
自 立教170年10月6日
至 立教170年10月10日
吉 舍 時宗一実
自 立教170年10月11日
至 立教170年10月15日
木津和 丸山哲子



何年前か4年か? 忘れてしまっただけど教会の庭先に水槽を置いてメダカを飼い始めた。一匹20円で10匹。黒色と薄い紅色の2種類だ。○○店オヤジの話では紅いのは外国産という。ウーン実に良い。外から帰ってきたら必ず見る。「帰ったよ」と声を掛ける。返事はない。疲れた心を慰めてくれる。オヤジにこう言った。

「実に良いね。家内と違って文句も言わない」するとオヤジが「そやけどメダカは飯作ってくれへんで」うっ、お返しの手が出来なかった。負けたな。10匹がいつの間にか赤ちゃんが産まれて今では水槽(縦30、横60、高さ36)が3つになった。朝の餌やり、時々の水換えと世話も楽しい。4月～10月の間に次々赤ちゃんが産まれる。みんなにあげようと思った。「メダカの赤ちゃんあげます」と塀に張り紙をする。小学校低学年くらいの子が貰いにくる。皆不思議に女の子やね。なんでやろ。男の子は来ない。時には若いお母さん

と一緒に付いてくる。これが狙い目なんだよな……。にをいがけだよ、にをいがけ! 子どもにメダカの育て方を話す。お母さんは必ず言うね。「広くて立派な庭ですね」「いやいや大したこと、ありません」まあ、教会に来てもらうことが大事やからね。人間関係が出来るのが最初の大変なことと思う。月次祭参拝の皆さんにも何人ももらって来て、皆よく育ててくれている。赤ちゃんも産まれているという。人間のふるさととはおちばだが、メダカのふるさとには我が教会だよ。これからも育てていくよ。

(ひ)

